

tam tam

2022.01

VOL. 14

14

P1 【特集】
市民活動一地域を良くする参加のカー

P2 【特集】市民活動への参加と、広がる人の輪

P3 隣の自治協さん「大路地区自治協議会」
丹波市民、学びの窓「地域における会議づくり」

P4 繋ぐ!市民活動「FRSC(ふりすく)たんば」
活動事業者紹介「丹波青年会議所」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

市民活動一地域を良くする参加のカー



市民活動は、皆さんの周りに溢れています。活動内容は、「地域の自治活動」をはじめ、「社会貢献、地域振興」「福祉、防災、教育、環境などのテーマ型活動」など多岐に渡ります。「道端のごみを拾う」といった身近なことも市民活動のきっかけかもしれません。市民活動の共通点は、「営利を目的としない」、「より多くの人のために」、「市民が自主的に活動している」と言われます。1人であっても誰かの気づきから始まる市民活動は、課題が社会に認知される前に、いち早くその課題に対応できます。公平性が重視される行政サービスや利益の最大化(営利)を追求する企業活動では対応できないことに対しても、市民が必要だと思えば活動になります。特に社会の変化が速く、市民の生活様

式や価値観が多様化している昨今において、地域の様々なことに対して迅速かつ柔軟に取り組む市民活動は、これからますます重要なものとして注目を集めています。

その市民活動も1人が活動しているだけでは、効果も限定的です。今回の特集では、より多くの皆さんが市民活動に参加することによって、地域により良い変化が生まれていくことについて考えます。

※ 市民活動支援センターでは、地域課題解決を目指す公益団体から、同窓会・趣味のサークルなど共益団体、地縁団体など幅広く支援しています。



Topics 01 参加を広げる取り組みと、広がる人の輪

市民が「自主的」に活動するという事は、個人の価値観や思いによって活動の姿が大きく変化します。そのことは、市民活動の強みである一方で、もしかすると特定の偏った情報や勘違いを基に活動しているかもしれません。市民活動は、それぞれの気付きや価値観から多様に取り組みめる活動であるとともに、社会からの様々な支援や理解を得ながら取り組んでいくものでもあります。情報を公開し、より多くの人に見てもらうことで、活動の重要性、必要性が伝わり、その活動への参加や支援の方

法がわかると、活動に関わる人の輪が広がります。そのような参加を広げていく過程では、多くの人と出会い、意見や情報、知恵の交換を通じ、個人としても組織としても、ほかでは得難い経験となつて、活動の更なる発展に繋がります。

世界一に挑戦するとして注目を集めた『高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト』は、昨年12月にギネス記録を見事に達成されました。その背景には、高校生たちが必死に参加を呼びかけ、寄付金を募り、多くの支援を求めていました。そこに多くの人が賛同、様々

な形で活動に参加し、大きなムーブメントとなりました。活動を始めた高校生たちの学びや達成感はもちろん、この活動に関わった1人ひとりに何かしらの変化があり、それぞれに地域に関心を持ったり、丹波の魅力発信に取り組んだり、他にも様々な良い効果があったはずで

す。市民活動には、参加を広げようとする努力と、それぞれの立場でのそれぞれの努力があり、それらの積み重ねが、地域を少しずつ豊かにしていくのではないのでしょうか。

活動者の声

私たちが企画し実行していく中で、高校生だけではできないこともあり、たくさんの方に協力していただきました。協力をお願いをする時に心掛けていたことは、プロジェクトの内容や自分たちの思いをわかりやすく伝えることです。自分たちで動くことで思いも伝わり、結果として、たくさんの方が快く協力してくださりました。多くの方にお願ひする中で、丹波を盛り上げようという熱い思いを持った人が多いと改めて感じました。そんな丹波の方々のおかげで、丹波の思いを背負ったプロジェクトになったと思います。また、支援していただいた分、絶対にプロジェクトを成功させなければならないと気合いも入りました。



高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト
お金班 足立風薫さん(写真中央)

Topics 02 市民活動への参加が生み出す地域の変化

市民活動に参加することは、その活動が対象とする地域課題の解決以外にも、地域にたくさんの変化を生み出しています。参加の力を活かすことで、どんな社会を作っていくことができるか考えてみましょう。

● 多くの人たちの力で課題を解決

人々に「参加の機会」を提供し、ともに課題を解決する（地域をよりよくする）状況をつくりだす。

● 多様な専門性や経験が活かされる

市民それぞれがもつ専門性や経験を活かす機会を提供し、活動の展開力や組織運営の質が高まる。

● 意思決定がより良くなる

多様な市民の視点やアイデアを得て、より広い視点から意思決定ができるようになる。

● アドボカシー※の力が高まる

活動を通して感じたことを周囲に発信することで、取り組む課題が広く社会に共有される。

※政治、経済、社会をより良くしようとする提言活動

● 意欲的な人たちの関わりが組織に活力をもたらす

自発的な思いを力に活動を進められる。

● 当事者意識を高め、対話で解決する市民が増える

社会の課題を「自分ごと」ととらえ、「世の中をつくっているのは私たちだ」と思うことで自信が高まる。また異なる意見の人々とも対話する経験を積み、社会の主体としての「市民」が育つ。

● 財政的基盤の強化（活動を支える人たちの広がり）

市民が主体的に活動する中で意欲が向上し、組織自体を支えたいと寄付者になり、また周囲の人々に参加や寄付の協力を呼びかける。多くの賛同者がいることは組織の信頼性を高める。

※日本NPOセンター 市民の参加が生み出す7つの変化を参考に作成

隣りの 自治協 会の さん

TONARI no
JICHIKYO san

大路地区自治協議会

地域は家族～みんなが主役 つながる大路～

大路地区自治協議会は春日地域東部の大路小学校区に位置し、人口約 1,900 人、約 800 世帯、8 自治会で構成されています。シンボルである三尾山や豊かな自然があり、東は栗柄峠の県道 69 号線で丹波篠山市へ、そして都市部からは1 時間半で訪れることのできる地域でもあります。高齢化率は 42%と丹波市内の小学校区としてはワースト2位。そのような中でも、自治協議会では、“地域は家族”というスローガンのもと、他団体とつながり協力しながら、23 年続いている「アグリフェスタ」や「元町マルシェ」、「おおじみそ」などの活動を、三尾荘を拠点に取り組んでいます。

また大路地区は、「一般社団法人みつおおじ」が地域の活性化という同じ目的に向かって、大路地区自治協議会と連携しながら取り組んでいることも特徴です。

自治協議会と地域団体が連携して課題に向かう

自治協議会と連携している一般社団法人みつおおじは、農村に滞在して地域の人々との交流ができる「農泊」を進める中で、大路地区の有志が集まり設立した団体です。

農地荒廃や空き家の増加などの地域課題を受け、自治協議会からの出資協力や情報の収集・発信網等を活用しながら、都市部の方々との交流、情報誌の発行などに取り組んでいます。現在は新型コロナウイルスの影響により都市部との交流事業はほとんど中止していますが、カフェみつおおじのランチイベント、大路ファーマーズマーケットを開催し、住民同士の交流事業の強化に努めています。

「自治協議会だけでは難しい事業も他団体と協働し、地域の若い世代を呼び込み、みんなで楽しんで運営することが地域活性化に繋がっていきます。」と自治協議会の副会長、山内一晃さんは語ります。今後も継続的に活動していくため、自治協議会とみつおおじは共に補完し合い、地域づくりを進めていきます。



三尾荘で開催した
カフェみつおおじのランチイベント



公民館で開催した大路ファーマーズマーケット

丹波市民、学びの窓

地域における「会議」づくり

日常生活や仕事などで当たり前にかかれる会議。「会議」という言葉について調べると、「ある特定の目的のために関係者が集まって、話し合い、意思決定すること。またはその会合」を意味することがわかります。総会、役員会、部会など形は様々ですが、自治会や地域づくり団体でも会議は頻繁にある、日常的に不可欠な活動の場の1つです。市民活動支援センターにも地域の役員さんや活動団体から「会議がうまくいかない」と悩みを寄せられることがよくあります。

本来の言葉の意味から、“目的がはっきりしていて、出席者と共有して

いるのか”、“関係する人が集まっているのか”、“出席者が話し合えているのか”、“その上で意思決定できているのか”という視点で、地域の会議を見直してみることが、良い会議には必要ではないでしょうか。

昨今、地域の課題はますます多様になり、解決が難しくなっています。新たな課題だけでなく、これまでやってきたことをどう続けていくのかを悩んでいる地域も多くあります。おそらく、それらに対する答えがすぐに見つかったり、誰かが解決してくれたり、実現してくれたりするものでもありません。だからこそ、今、その地域に住む人・関わる人（関係者）

が集まり、知恵やアイデア・思いを話し合い、形にしていく（意思決定）ための会議が地域づくりにとってこれから特に重要になってきます。

そのような会議にしていくには、様々な準備・工夫・改善、つまり、なんとなく会議を開くのではなく、会議をつくる必要があります。市民活動支援センターでは会議運営の支援や相談に対応しています。今年は共に、誰もが参加できる地域づくりにつなげる「会議づくり」に取り組んでいきませんか。



話し合いに工夫を重ねている
芦田自治振興会地域づくり委員会



繋ぐ!市民活動

丹波市で唯一のフリースクール「FRSC(ふりすく)たんば」

FRSC(ふりすく)たんばは、学校に行きづらい子どもたちが、いつでも通えるフリースクールとして2021年9月に青垣地域の芦田集学校(旧芦田小学校)に開校しました。運営する「フリースクール運営実行委員会」は、不登校の子を持つ親の自助グループ「氷上子育て親の会」と「NPO 法人たんば子ども若者支援者ネットワークえん」が母体となっています。丹波市にはフリースクールがなく、丹波市内で開校できないかと2年程前から準備を進めてきました。

元教員のスタッフらを中心に、火・水・金曜日は学校の宿題など学習面の支援、土曜日には学習の支援に加えてスタッフの専門性を活かした理科実験・工作・音

楽・調理実習などのお楽しみ教室も開催しています。自由に通えることが特徴で、学習指導要領にとらわれずに、学びたい時に学び、遊びたい時に遊ぶことができます。

9月に開校したばかりでまだ通っている子どもは少ないですが、ここで出会い、すぐに親しい友達ができたり、自分の好きなことに取り組んだり、子どもたちの新しい居場所となっています。

スクール長の足立晃一郎さんは「子どもたちに面白いことを体験してもらいたい」と話し、学校に行きづらい子どもだけではなく、土曜日の開催では地域の子どもの利用でき、様々な子どもの「学校以外の居場所」を目指しています。



スクール長足立晃一郎さんと芦田集学校にあるフリースクール教室



市民プラザ大交流会 2021 では「FRSC たんば」の活動を紹介



活動事業者紹介

一般社団法人丹波青年会議所

一般社団法人丹波青年会議所(丹波JC)は、20歳から40歳までの青年経済人有志が集まり、1972年に設立されました。社会開発・青少年育成・自己啓発・内外の交流・会員拡大・総務広報の6委員会活動しています。昨年11月、おばあちゃんの里に設置した白いモニュメント「+1TAMBA」は50周年事業として、丹波の良いところにさらに価値を付けることで地域を盛り上げようという理念を発信し、皆さんに会員の思いを伝えていくシンボルとなるものです。

この理念に辿り着くまでには、まちの課題や子どもたちのことについて会員で議論を重ねました。丹波市が消滅可能性都市の1つに挙げられ、高校卒業で市外

に出ると帰ってこない人が多い現実にも直面しました。地元で商売をする者として地域を盛り上げたいが、どんなことができるのかと夜遅くまで真剣に考える会議が続きました。そのような議論が帰丹プロジェクトとして2017年から始まった、丹波で最高の水遊びを楽しむイベント「SPLASH!! 丹波!!」や、この50周年ビジョンにつながるようになります。

第50代理事長の北野裕輔さんは、役員は毎年代わっていくが、不連続の連続からビジョンを軸に活動を続けていくことで事業の継続性が保たれると語っています。過去には、「氷上郡を1つにする」という長年の活動が旧6町の合併への道筋となりました。つい課題や問題点にば

かり注目しますが、丹波JCはプラスワンの理念の下、本来持っているまちの良さや強みをさらに伸ばしていきます。



+1TAMBAのモニュメント



10月例会の様子



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は21:30まで) / 毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。